

ニ屬スル軍艦ノ指揮官ハ麾下ノ士官ヲシテ該船舶ニ對シテ其ノ告知ヲ爲サシムルヲ要ス
前項ノ告知ハ書式第三ニ依リ之ヲ爲シタル日及時並當時ニ於ケル該船舶ノ地理上ノ位置ヲ明示シテ之ヲ其ノ船舶書類ニ記入スルヲ要ス

第四十六條 封鎖艦隊ハ船舶ノ中立港及中立沿岸ニ接到スルトナリ遮斷スルヲ得ズ

第四十七條 封鎖艦隊ノ指揮官ハ外國軍艦ニ對シテ封鎖港内ニ航入シ且更ニ出港スルノ許可ヲ與フルコトヲ得

第四十八條 中立船ハ封鎖艦隊ニ屬スル官憲ニ於テ其ノ海難ニ遭遇シタルコトヲ認定シタル場合ニハ封鎖地域内ニ航入シ且載貨ノ卸下又ハ積載ヲ爲サザルノ條件ヲ以テ更ニ出航スルトナリ得

第四十九條 封鎖ヲ破リテ封鎖地域ヲ出港シ又ハ封鎖地域ニ航入セムコトヲ企ツル船舶ハ其ノ國籍ノ如何ヲ問ハズ封鎖犯トシテ總テ之ヲ拿捕スベシ

第五十條 封鎖ヲ破ラムトスル船舶ハ封鎖ノ有效ナルコトヲ確保スルノ任ヲ帶ベル艦隊ノ行動區域内ニ非ザレバ封鎖犯トシテ拿捕スルコトヲ得ズ

第五十一條 封鎖ヲ破ラムトスル船舶ハ封鎖艦隊所屬ノ軍艦ニ於テ其ノ追跡ヲ繼續スル間ハ之ヲ拿捕スルコトヲ得既ニ追跡ヲ止メタル場合及封鎖ヲ解除シタル場合ニハ之ヲ拿捕ナリ行フコトヲ得ズ

第五十二條 船舶ニシテ封鎖艦隊ノ行動區域内ニ入り附近ヲ徘徊スルモノハ其ノ船舶書類ニ示セル到達地ノ如何ニ關セズ之ヲ拿捕スルコトヲ得

第五十三條 船舶ニシテ該船舶又ハ其ノ載貨ノ最後ノ到達地ノ如何ニ拘ラズ現ニ封鎖セラレザル港ニ向テ航行スル場合ニ於テハ封鎖犯トシテ之ヲ拿捕スルコトヲ得ズ

第五十四條 封鎖ヲ破リタル船舶ハ沒收セラレベキモノトス其ノ載貨亦同シ但シ積積人ニシテ載貨ヲ積込ミタル當時ニ於テ其ノ封鎖ヲ破ラムトスル意思ヲ有スルコトヲ知ラズ又知ルヲ得ザリシコトヲ證明スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十三章 戰時禁制品ノ輸送
第五十五條 別段ノ規定ナキ限ハ左ノ各號ニ掲グル材料及物件ハ絕對的戰時禁制品タルベキモノトス

- 一 一切ノ武器(狩獵用武器ヲ含ム)其ノ組成品タルコト明ナルモノ
- 二 一切ノ彈丸、裝藥、彈藥包及其ノ組成品タルコト明ナルモノ
- 三 特ニ戰争用トシテ製造セラレタル火藥及爆發物
- 四 砲架、彈藥車、前車、軍用運搬車、野戰鍛冶器及其ノ組成品タルコト明ナルモノ
- 五 軍用タルコト明ナル被服及武裝具

六 軍用タルコト明ナル一切ノ馬具

七 特ニ軍用トシテ製造セラレタル工兵器材

八 戰争ノ用ニ供スルヲ得ベキ乘用鞍用ノ獸類

九 陣營具及其ノ組成品タルコト明ナルモノ

十 甲鐵鈹

十一 軍艦及戰艦用艇舟並特ニ上記艦艇ニ限リ使用シ得ベキコト明ナル組成品

十二 飛行機、飛行船、氣球其ノ他一切ノ航空機及其ノ組成品タルコト明ナルモノ並航空機用ニ供セラレタルモノト認ムベキ屬具、物件及材料

十三 兵器彈藥製造ノ爲又ハ陸海軍用ノ武器及材料ノ製造修理ノ爲專ラ作製セラレタル機械器具

第五十六條 別段ノ規定ナキ限ハ左ノ各號ニ掲グル材料及物件ハ條件附戰時禁制品タルベキモノトス

- 一 糧食
- 二 獸類ノ飼料用ニ適スル芻秣及穀類
- 三 軍用ニ適スル被服、被服用織物及靴類
- 四 金銀貨幣、地金銀及紙幣
- 五 戰争ノ用ニ供スルヲ得ベキ一切ノ車輛及其ノ組成品
- 六 一切ノ船舶及艇舟、浮船渠、船渠ノ部分並其ノ組成品
- 七 鐵道ノ固定及運轉用材料及電信、無線電信及電話ノ材料

八 燃料及機械潤滑用材料

九 特ニ戰争用トシテ製造セラレタルモノニ非ザル火藥及爆發物

十 刺アル鐵線及其ノ架設又ハ切斷用ニ供スベキ機械

十一 蹄鐵及蹄鐵用材料

十二 鞍用及鞍用ノ物件

十三 雙眼鏡、望遠鏡、「クロノメートル」及各種ノ航海用具

第五十七條 左ノ各號ニ掲グルモノハ前二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ戰時禁制品ト爲スコトヲ得ズ

一 專ラ病者傷者ノ看護ニ供スベキ物件及材料但シ軍事上重大ナル必要アル場合ニ於テハ此等ノ物件及材料ニシテ

第五十八條 規定スル到達地ヲ有スルトキニ限リ賠償ヲ爲スノ義務ヲ負ヒテ之ヲ徵發スルコトヲ得

二 船舶ノ自用ニ供スベキ船内ニ在ル物件及材料航行中該船舶ノ乘員及船客ノ用ニ供スベキ物件及材料

第五十九條 第五十五條ノ物件及材料ニシテ其ノ敵國ノ領土若ハ占領地又ハ敵國軍隊ニ仕向ケラレタルモノト認ムベキトキハ其ノ直接ニ輸送セラレルト又ハ轉載若ハ陸路ニ依リ輸送セラルルトナリ問ハズ之ヲ戰時禁制品トス

第六十條 前條ニ規定スル到達地ハ左ニ掲グル場合ニ於テハ明確ニ證明セラレタルモノトス

- 一 專ラ病者傷者ノ看護ニ供スベキ物件及材料但シ軍事上重大ナル必要アル場合ニ於テハ此等ノ物件及材料ニシテ
- 二 船舶ノ自用ニ供スベキ船内ニ在ル物件及材料航行中該船舶ノ乘員及船客ノ用ニ供スベキ物件及材料
- 三 第五十五條ノ物件及材料ニシテ其ノ敵國ノ領土若ハ占領地又ハ敵國軍隊ニ仕向ケラレタルモノト認ムベキトキハ其ノ直接ニ輸送セラレルト又ハ轉載若ハ陸路ニ依リ輸送セラルルトナリ問ハズ之ヲ戰時禁制品トス
- 四 第五十九條 前條ニ規定スル到達地ハ左ニ掲グル場合ニ於テハ明確ニ證明セラレタルモノトス

一 貨物ニシテ敵港ニ陸揚セラレ又ハ其ノ軍隊ニ引渡サルベキモノナルコトヲ船舶書類ニ記載スルトキ

二 船舶ニシテ敵港ニノミ到達スベキモノナルトキ又ハ船舶ニシテ船舶書類上貨物ノ陸揚地タル中立港ニ達スル以前ニ於テ敵港ニ寄港シ若ハ敵國軍隊ニ會合スベキモノナルトキ

第六十條 船舶書類ハ絕對的戰時禁制品ヲ輸送スル船舶ノ航海ニ關スル證據タルベキモノトス但シ該船舶ニシテ船舶書類ノ記載ニ依リ航行スベキ航路ヲ明ニ離レタル際ニ帝國軍艦ニ遭遇シ且其ノ航路變更ニ付テ充分ナル理由ヲ辯明スルコト能ハザル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十一條 第五十六條ノ物件及材料ニシテ其ノ敵國軍隊又ハ行政廳ノ使用ニ仕向ケラレタルモノト認ムベキトキハ之ヲ戰時禁制品トス但シ行政廳ニ仕向ケラレタル場合ニ於テ此等ノ物件及材料ハ事實上該戰爭ノ爲ニ使用セラルベキモノニ非ザルコトヲ諸般ノ情況ニ依リ立證セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ規定ハ第五十六條第四號ニ規定スル物件ノ輸送ニハ之ヲ適用セズ

第六十二條 第五十六條ノ物件及材料ハ左ニ掲グル各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ニ規定スル到達地ヲ有スルモノト推定ス

一 敵國官憲ニ仕向ケラレタルトキ

二 敵國ニ在住シ此種ノ物件又ハ材料ヲ敵國政府ニ供給スルコト著名ナル商人ニ仕向ケラレタルトキ

三 敵國政府ノ代理人又ハ敵國政府ノ監督ノ下ニ在ル商人若ハ其ノ他ノ人ニ仕向ケラレタルトキ

四 敵ノ防備アル場所又ハ敵國軍隊ノ策源地若ハ補給地タル其ノ他ノ場所ニ仕向ケラレタルトキ

第六十三條 第五十六條ノ物件及材料ニシテ第六十一條ノ到達地ヲ有スルモノト認ムベキトキハ之ヲ輸送スル船舶ノ到達地ノ如何ニ拘ラズ又ハ該物件及材料ヲ陸揚スル港ノ如何ニ拘ラズ之ヲ戰時禁制品トス

船舶書類ハ船舶ノ航海及貨物ノ陸揚場所ニ關スル證據タルベキモノトス但シ該貨物が第六十一條ノ到達地ヲ有スルコトヲ認ムベキ他ノ充分ナル證據アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十四條 絕對的又ハ條件附戰時禁制品ヲ輸送スル船舶ハ其ノ航海中何時ニテモ公海又ハ交戰國領水内ニ於テ之ヲ拿捕スルコトヲ得該船舶ニシテ其ノ敵タル到達地ニ達スル以前ニ中間港ニ寄港セムトスル意思ヲ有スル場合亦同シ

第六十五條 曩ニ履行シ且現ニ終了シタル戰時禁制品輸送ノ理由ヲ以テ拿捕ヲ行フコトヲ得ズ

第六十六條 戰時禁制品ヲ輸送スル船舶ハ第六十七條及第七十條ノ場合ヲ除クノ外其ノ國籍ノ如何ヲ問ハズ總テ之ヲ拿捕ス

ベシ

第六十七條 戰時禁制品ヲ輸送スル船舶ニシテ開戦ノ事實又ハ其ノ戰貨ニ對シ適用スベキ戰時禁制品ノ宣言ヲ知ラズシテ航海中帝國軍艦ニ遭遇シタル場合ニ於テハ該船舶ハ之ヲ扣留スルコトヲ得

船長ニシテ戰爭ノ開始又ハ戰時禁制品ニ關スル宣言ヲ知リタルモ未ダ戰時禁制品ヲ陸揚スルヲ得ザリシ場合亦前項ニ同シ

船舶ニシテ中立港ノ所屬國ニ對シ戰爭開始又ハ戰時禁制品ノ宣言ノ通告アリタル後相當ノ期間ヲ經テ該港ヲ出港シタルトキハ該船舶ハ交戰狀態又ハ戰時禁制品ノ宣言ヲ知リタルモノト推定ス尙船舶ニシテ戰爭開始後敵港ヲ出港シタルトキ又ハ戰爭開始後若ハ戰時禁制品ノ宣言ノ公示アリタル後帝國港若ハ同盟國港ヲ出港シタルトキ亦同シ

第六十八條 前條ノ場合ニ於テ艦長ハ必要ニ應ジ戰時禁制品ヲ押收スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ將來賠償ヲ爲スヲ要スベキヲ以テ艦長ハ押收スル戰時禁制品ノ種類、價格、保險料及運賃ニ關シ書式第四ニ依リ調査ニ通テ作成シ内一通ヲ艦長ニ交付スベシ

第六十九條 艦長第六十七條ノ船舶ヲ扣留セザルトキハ臨檢士官ヲシテ其ノ船舶書類ニ書式第五ニ依リ警告ヲ記入セシムベシ必要ト認ムルトキハ他方ニ航路ヲ變更セシムル等相當ノ措置

置ヲ爲スコトヲ得

第七十條 戰時禁制品輸送ノ理由ヲ以テ停船ヲ命ジタルモ戰時禁制品ノ分量ノ關係上沒收セラルベキモノニ非ザル船舶ニシテ船長ニ於テ帝國軍艦ニ對シ戰時禁制品ノ引渡ヲ爲スコトヲ申出デタルトキハ艦長ハ情況ニ應ジ其ノ航海ノ續航ヲ許可スルコトヲ得

艦長ハ戰時禁制品ノ引渡ヲ受ケタルトキハ之ヲ該船舶書類ニ記入シ且該船長ヲシテ一切ノ必要ナル船舶書類ノ認證牒本ヲ提出セシムベシ

艦長ハ引渡ヲ受ケタル戰時禁制品ノ種類ニ關シ書式第六ニ依リ調査ニ通テ作成シ内一通ヲ艦長ニ交付スベシ

第七十一條 戰時禁制品ハ沒收セラルベキモノトス

第七十二條 戰時禁制品ヲ輸送スル船舶ハ該戰時禁制品ニシテ其ノ價格、重量、容積又ハ運賃上全載貨ノ半數以上ニ上ル場合ニ限り沒收セラルベキモノトス

第七十三條 戰時禁制品ヲ輸送スル船舶ニシテ解放セラルルトキハ審檢手續ニ關シ並審檢中該船舶及其ノ載貨ニ關シ當該官憲ニ於テ支拂ヒタル費用ハ該船舶ノ負擔タルベキモノトス

第七十四條 戰時禁制品ノ所有者ニ屬シ且同一船舶内ニ在ル貨物ハ沒收セラルベキモノトス

第七十五條 第六十七條ノ場合ニ於テ戰時禁制品ヲ輸送スル船

船及戰時禁制品以外ノ載貨ハ沒收セラルルコトナシ
前項ノ船舶及載貨ニ對シテハ第七十三條ニ規定スル費用ハ免
除セラルベキモノトス

第十四章 軍事的補助

第七十六條 中立船ニシテ左ニ掲グル場合ニ該當スルトキハ之
ヲ拿捕スベシ

一 船舶ニシテ敵國軍隊ニ編入セラレタル乗客ヲ輸送スル
目的ヲ以テ又ハ敵ナリスル爲情報ヲ傳達スル目的ヲ以テ
特ニ航海スル場合

二 船舶所有者、船舶全部ノ備船者又ハ船長ニ於テ情ヲ知
リテ敵ノ軍隊ノ一部又ハ敵ノ作戦行動ニ對シ航海中直接
ノ補助ヲ與フル一人若ハ數人ヲ輸送スル場合

前項ノ船舶ニ對シテハ一般ニ戰時禁制品輸送ノ爲沒收セラル
ベキ中立船ト同一ノ取扱ヲ爲スコトヲ得

第七十七條 前條ノ場合ニ於テハ船舶及船舶所有者ニ屬スル貨
物ハ沒收セラルベキモノトス

第七十八條 第七十六條ノ規定ハ船舶ニシテ海上ニ於テ帝國軍
艦ニ遭遇シタル際ニ未ダ開戦ノ事實ヲ知ラザルトキ又ハ船長
ニ於テ開戦ノ事實ヲ知リタルモ未ダ其ノ輸送スル人員ヲ上陸
セシムルヲ得ザルトキハ之ヲ適用セズ

船舶ニシテ戰争開始後帝國港、同盟國港若ハ敵港ヲ出港シタ
ルトキ又ハ中立港ノ所屬國ニ對シ戰争開始ノ通知アリタル後

相當ノ期間ヲ經テ該港ヲ出港シタルトキハ該船舶ハ交戰狀態
ヲ知リタルモノト推定ス

第七十九條 艦長ハ開戦ノ事實ヲ知ラザル船舶ニ對シテハ臨檢
士官ヲシテ其ノ船舶書類ニ書式第五ニ準ジ警告ヲ記入セシム
ベシ必要ト認ムルトキハ他方ニ航路ヲ變更セシムル等相當ノ
措置ヲ爲スコトヲ得

第八十條 中立船ニシテ左ニ掲グル場合ニ該當スルトキハ之ヲ
拿捕スベシ

一 該船舶ニシテ直接ニ戰鬪行爲ニ加ハル場合
二 該船舶ニシテ敵國政府ニ於テ該船内ニ乘組マシメタル
代理人ノ命令又ハ監督ヲ受クル場合

三 該船舶ニシテ全部敵國政府ノ爲ニ備入セラレタル場合
四 該船舶ニシテ現ニ且專ラ敵國軍隊ノ輸送又ハ敵ナリス
ル爲情報ヲ傳達ニ從事スル場合

前項ノ船舶ニ對シテハ一般ニ敵商船ト同一ノ取扱ヲ爲スコト
ヲ得

第八十一條 前條ノ場合ニ於テハ船舶及船舶所有者ニ屬スル貨
物ハ沒收セラルベキモノトス

第八十二條 敵國軍隊ニ編入セラレタル人員ニシテ中立商船内
ニ在ル者ハ該船舶ヲ拿捕スルヲ得ザル場合ト雖之ヲ俘虜ト爲
スコトヲ得

第八十三條 前條ノ場合ニ於テハ臨檢士官ハ艦長ノ命ヲ承ケ其

ノ人員ノ引渡ヲ船長ニ請求スルコトヲ得

船長引渡ヲ拒絶シタルトキハ臨檢士官ハ該人員ノ收容ニ著手
シ乗員之ニ抵抗シタルトキハ該船舶ヲ拿捕スベシ

第八十四條 前條ノ場合ニ於テハ臨檢士官ハ書式第七ニ依リ引
渡ニ關スル調書二通ヲ作成シ内一通ヲ船長ニ交付スベシ

第八十五條 船長第八十二條ノ人員ノ引渡ニ付異議ヲ申立テタ
ルトキハ艦長ハ速ニ其ノ要領及之ニ對シテ執リタル措置ヲ海
軍大臣ニ報告スベシ

第八十六條 本章ノ規定ハ帝國船舶及同盟國船舶ニ付之ヲ準用
ス

第十五章 無線電信

第八十七條 艦隊又ハ軍艦ノ指揮官ハ作戦行動上必要アルトキ
ハ其ノ作戦区域内ニ於ケル無線電信裝置ヲ有スル船舶ニ對シ
テ左ニ掲グル事項ヲ禁止スルコトヲ得

一 艦隊、軍艦又ハ軍用船ノ位置及其ノ動作ニ關スル通信
ヲ發送スルコト

二 艦隊、軍艦又ハ軍用船ヨリ發スル通信ヲ登錄スルコト

三 艦隊、軍艦又ハ軍用船ノ通信ヲ妨害スベキ一切ノ行爲
ヲ爲スコト

艦隊又ハ軍艦ノ指揮官ハ必要ニ應ジ前項ノ船舶ニ對シテ暗號
電信ノ發信ヲ禁止シ又ハ無線電信ノ用語ヲ制限スルコトヲ得

第八十八條 艦隊又ハ軍艦ノ指揮官前條ノ禁止又ハ制限ヲ爲ス

場合ニ於テハ右禁止制限ノ及アベキ地理的限界、禁止制限ノ
内容及其ノ開始ノ日並必要アルトキハ禁止制限ノ時期又ハ時
間ヲ明示シタル宣言(書式第八)ヲ爲シ艦下ノ士官ヲシテ必要
ニ應ジ之ヲ禁止制限ノ區域及其ノ附近ニ在ル無線電信裝置ヲ
有スル船舶ニ告知セシムベシ

前項ノ告知ハ書式第九ニ依リ之ヲ爲シタル日及時並當時ニ於
ケル該船舶ノ地理上ノ位置ヲ明示シテ之ヲ其ノ船舶書類ニ記
入スルヲ要ス

第八十九條 前條ノ告知ヲ受ケ又ハ第八十七條ノ禁止制限ヲ知
リタルコトヲ認メ得ベキニ拘ラズ禁止制限ヲ犯シタル船舶ハ
之ヲ拿捕スベシ

第九十條 第八十七條ノ禁止制限ヲ知ラズシテ之ヲ犯シタル船
舶ニ對シテハ艦長ハ必要ニ應ジ其ノ離隔ヲ命ジ航行スベキ方
向ヲ示命シ且其ノ船中ニ監督員ヲ乗込マシメ若シ重大ナル場
合ニ於テ必要ト認ムルトキハ之ヲ抑留スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ艦長ノ其ノ下シタル諸命令ヲ成ルベク該
船舶ノ船舶書類ニ記入スベシ

第九十一條 前條ノ場合ニ於テ該船舶内ニ在ル通信ノ登錄簿ニ
シテ禁止制限事項ニ關スル記事ヲ記入シタルモノハ之ヲ押收
スルコトヲ得

該船舶ノ善意ニ付疑フベキ充分ノ理由アルトキハ其ノ無線電
信機モ亦之ヲ押收スルコトヲ得

第九十二條 第八十九條又ハ第九十條ノ場合ニ於テ該船舶ノ行爲ニシテ軍事ノ補助ニ該當スト認ムベキトキハ第十四章ノ規定ニ依リテ之ヲ處置スベシ

第九十三條 第八十九條ノ船舶ハ沒收セラレキモノトス該船舶ニ搭載スル無線電信機及禁止制限事項ニ關スル通信ノ登錄簿亦同シ

第九十四條 敵國領土内ニ在ル無線電信海岸局ハ其ノ所有者ノ如何ヲ問ハズ軍事上ノ必要ニ應ジテ之ヲ押收シ又ハ破壞シ其ノ他通信ヲ不可能ナラシムベキ處分ヲ爲スコトヲ得

第十六章 臨檢ニ對スル抵抗

第九十五條 船舶ニシテ停船、臨檢、搜索及拿捕ノ權利ノ合法ナル行使ニ對シ強力ヲ以テ抵抗スルトキハ其ノ國籍ノ如何ヲ問ハズ之ヲ拿捕スベシ

第九十六條 前條ノ船舶ハ沒收セラレキモノトス
前項ノ船舶ニ搭載スル貨物ハ敵船ノ載貨ト同一ノ處分ヲ受ケベシ船長又ハ船舶所有者ニ屬スル載貨ハ之ヲ敵貨ト看做ス

第十七章 軍艦護送

第九十七條 中立船ニシテ其ノ本國軍艦ノ護送ヲ受ケルモノニ對シテハ護送軍艦指揮官ガ之ヲ臨檢セムトスル帝國軍艦指揮官ノ請求ニ依リ其ノ船舶ノ性質及載貨ニ付テ臨檢ニ依リテ知ルヲ得ベキ一切ノ情報ヲ書面ヲ以テ通知シタルトキハ臨檢及搜索ヲ行フコトヲ得ズ

第九十八條 帝國軍艦指揮官ニシテ護送軍艦指揮官ニ欺カレ居ルコトヲ疑フコトアルトキハ嫌疑ノ旨ヲ護送軍艦指揮官ニ通知スベシ此ノ場合ニ於テ檢證ヲ行フハ護送軍艦指揮官ニ限ルモノトス但シ護送軍艦指揮官ニ於テ該檢證ニ付テ帝國軍艦指揮官ノ助力ヲ請求スルトキハ麾下士官ヲ派遣シテ之ニ立會ハシムルコトヲ得

前項ノ檢證ノ結果ハ護送軍艦ニ於テ之ガ調書ヲ作リ其ノ謄本一通ヲ帝國軍艦士官ニ交付スルモノトス

第九十九條 護送軍艦指揮官ニ於テ其ノ護送スル船舶ノ一隻又ハ數隻ヲ拿捕スルニ相當ノ事實アリト認メ此等ノ船舶ニ對シテ軍艦護送ノ保護ヲ撤回シタルトキハ帝國軍艦指揮官ハ該船舶ヲ拿捕スベシ

第一百條 帝國軍艦指揮官ニ於テ中立國軍艦ノ護送スル船舶ニ關シ護送軍艦指揮官ト見解ヲ異ニスルモノアルトキハ帝國軍艦指揮官ハ護送軍艦指揮官ニ對シ抗議書ヲ送達シ直ニ其ノ旨ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第一百一條 敵國軍艦ノ護送ヲ受ケ航行スル船舶ハ之ヲ拿捕スベシ

前項ノ船舶ハ必要ニ應ジテ之ヲ攻撃破壞スルコトヲ得

第一百二條 敵國軍艦ノ護送ヲ受ケ航行スル船舶及其ノ載貨ハ沒收セラレキモノトス

第十八章 船舶書類

第二百三條 通常船舶内ニ備フベキ重ナル船舶書類ハ左ノ如シ

- 一 航船國籍證書
- 二 航海日誌
- 三 海員名簿
- 四 乘客名簿
- 五 備船契約書
- 六 船荷證券及送狀
- 七 載貨目錄
- 八 出港證書
- 九 健康證書
- 十 航船賣渡證書

第二百四條 艦長ハ船舶ノ國籍、發船地、到達地、航路及任務並載貨ノ性質、種類、到達地及其ノ他必要ナル事項ヲ明ニスル爲必要ナル船舶書類ヲ檢査スベシ

第二百五條 艦長ハ必要アリト認ムルトキハ左ノ書類ノ提出ヲ請求スルコトヲ得

- 一 機關日誌
 - 二 船舶又ハ載貨ノ保險契約證書
 - 三 無線電信裝置ヲ有スルトキハ其ノ發信及受信簿
- 第二百六條 船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ國籍ノ如何ヲ問ハズ之ヲ拿捕スベシ
- 一 船舶書類ヲ備ヘザルトキ

第二百七條 船舶ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ情狀疑フベキモノアルトキハ其ノ國籍ノ如何ヲ問ハズ之ヲ拿捕スルコトヲ得

- 一 船内ニ備フベキ必要ナル書類ヲ提供セズ又ハ船舶書類不整頓ナルトキ
- 二 船舶書類互ニ矛盾シ又ハ其ノ書類ト船長ノ陳述ト齟齬スルトキ

第十九章 郵便信書

第二百八條 海上ニ於テ中立船又ハ敵船内ニ在ル中立者又ハ交戰者ノ郵便信書ハ其ノ性質ノ公私ヲ問ハズ不可侵トス船舶ヲ拿捕シタルトキハ右信書ハ捕獲艦長ニ於テ爲シ得ル限り速ニ之ヲ發送スベシ

前項ノ規定ハ封鎖違反ノ場合ニ於テ封鎖港ニ宛テ又ハ封鎖港ヨリ來リタル信書ニ之ヲ適用セズ

第二百九條 郵便信書ノ不可侵ハ之ガ爲中立郵便船ニ對シ一般中立商船ニ關スル海戰ノ法規慣例ノ適用ヲ免除スルモノニ非ズ但シ臨檢搜索ハ成ルベク寬大且迅速ニ必要アル場合ニ限り之ヲ行フコトヲ要ス

第二百十條 第二百八條ノ規定ハ明治四十五年條約其第十一號海戰

ニ於ケル捕獲權行使ノ制限ニ關スル條約ヲ批准シ又ハ之ニ加
盟シタル諸國ニ對シテノミ之ヲ適用ス

第一百一十條 第八條第二項及第一百條ノ場合ニ於テハ艦長ハ
拿捕船内ニ在ル郵便信書ニシテ敵國官憲又ハ敵國若ハ敵ノ占
領セル土地ニ住居スル者ニ宛テラレタルモノハ其ノ性質ノ公
私ヲ問ハズ之ヲ押收シ必要ト認ムルモノハ之ヲ海軍大臣ニ送
致スベシ

拿捕船内ニ在ル郵便信書ニシテ前項ニ該當セザルモノハ成ル
ベク速ニ之ヲ其ノ到達地ニ發送スルノ手段ヲ執ルベシ

第二十章 拿捕シタル船舶ノ乗員及乗客ノ取扱

第一百一十二條 敵船ヲ拿捕シタル場合ニ於テ中立國ノ國籍ヲ有ス
ル船舶ハ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得ズ

第一百一十三條 敵船ノ船長及職員ニシテ中立國ノ國籍ヲ有スル者
ハ戰爭繼續中敵船ニ於テ勤務セザルコトヲ書面(書式第十)ヲ
以テ正式ニ約束シタルトキハ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得ズ

第一百一十四條 敵船ノ船長、職員及船員ニシテ敵國ノ國籍ヲ有ス
ル者ハ戰爭繼續中作戦動作ニ關係ヲ有スル何等ノ勤務ニモ服
セザルコトヲ書面(書式第十)ヲ以テ正式ニ誓約シタルトキハ
之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得ズ

第一百一十五條 敵船ノ船長、職員及船員ニシテ前二條ノ規定ニ依
リ正式ニ約束又ハ誓約シタル者ハ之ヲ解放スベシ此ノ場合ニ
於テハ艦長ハ直ニ其ノ解放者ノ氏名ヲ海軍大臣ニ報告シ且相
ルコトヲ得ズ

遇スルニ道ヲ以テシ其ノ私有財産ノ保護ニ注意スベシ
俘虜ニ對シテハ必要ニ應ジ檢束ヲ加フルコトヲ得ルモ其ノ他
ノ乗員及乗客ニ對シテハ特別ノ理由ナキ限ハ之ニ檢束ヲ加フ
ルコトヲ得ズ

第二十一章 拿捕シタル敵船及其ノ載貨ノ破壊

第一百一十二條 拿捕シタル敵船ヲ帝國港ニ送致スルガ爲帝國軍
艦ノ安全又ハ作戦行動ノ成效ヲ害スト認ムル場合ニ於テハ之
ヲ破壊スルコトヲ得

第一百一十三條 前條ノ破壊ヲ爲スニ當リテハ艦長ハ豫メ該船舶
内ニ在ル一切ノ人員ヲ安全ノ場所ニ移シ且審檢上必要ナル一
切ノ書類物件ヲ總テ艦内ニ轉載スベシ

第一百一十四條 敵船ヲ破壊シタル場合ニ於テハ艦長ハ破壊ノ已
ムヲ得ザルニ至リタル情況及處分ノ顛末ヲ詳記シテ書式第十
一ニ依リ調書ヲ作り捕獲士官ヲシテ破壊シタル船舶ノ人員並
轉載シタル船舶書類及其ノ他ノ書類物件ト共ニ之ヲ最近ノ帝
國捕獲審檢所ニ送致セシムベシ

艦長ハ前項ニ準シ直ニ船舶破壊ニ關スル詳細ナル報告ヲ海軍
大臣ニ提出スベシ

第二十二章 拿捕シタル中立船及其ノ載貨ノ破壊

第一百一十五條 艦長ハ其ノ拿捕シタル中立船ヲ破壊スルコトヲ
得ズ

第一百一十六條 拿捕シタル中立船ニシテ其ノ沒收セラルベキコ
トヲ得

當ノ手續ヲ經テ成ルベク之ヲ敵國ニ通告スルコトニ努ムベ
シ

第一百一十六條 前四條ノ規定ハ敵對行爲ニ加ハリタル敵船ニハ之
ヲ適用セズ

第一百一十七條 敵船内ニ在ル乗員ハ反證ナキ限り之ヲ敵國ノ國籍
ヲ有スルモノト推定ス

第一百一十八條 拿捕シタル中立船ノ乗員ハ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ
得ズ但シ證人ト爲スノ必要アリト認ムル者ハ之ヲ抑留スルコ
トヲ得

前項ノ船舶ニシテ第十八條第二項、第八十條、第九十五條又
ハ第一百一條ニ該當スルトキハ該船舶ノ乗員ハ必要ニ應ジ之ヲ
俘虜ト爲スコトヲ得

第一百一十九條 捕獲シタル船舶内ニ在ル乗客ハ敵國軍隊ニ編入セ
ラレタル人員ヲ除クノ外成ルベク速ニ便宜ノ港ニ於テ上陸セ
シムベシ

前項ノ乗客中證人ト爲スノ必要アリト認ムル者ハ之ヲ抑留ス
ルコトヲ得

第一百二十條 拿捕シタル船舶内ニ在リテ教法、醫療及看護ニ從
事スル敵國人ハ之ヲ俘虜ト爲スコトヲ得ズ但シ其ノ情況疑ハ
シキ者アルトキハ其ノ證據明トナル迄之ヲ抑留スルコトヲ
得

第一百二十一條 總テ拿捕シタル船舶ノ乗員、乗客及俘虜ハ之ヲ

ト明ナリト認ムルモノハ之ヲ帝國港ニ送致スルガ爲帝國軍艦
ノ安全ヲ害シ又ハ現ニ從事スル作戦行動ノ成效ヲ害スル場合
ニ於テハ之ヲ破壊スルコトヲ得

第一百二十七條 前條ノ破壊ヲ爲スニ當リテハ艦長ハ豫メ該船舶
内ニ在ル一切ノ人員ヲ安全ノ場所ニ移シ且捕獲ノ有效ナルコ
トヲ檢定スルニ必要ナリト認ムル一切ノ船舶書類及其ノ他ノ
書類物件ヲ艦内ニ轉載スベシ

第一百二十八條 中立船ヲ破壊シタルトキハ艦長ハ捕獲ニ關スル
審檢前ニ於テ先ツ第一百二十六條ニ規定シタル特別ノ必要アリ
タルガ爲破壊ノ手段ヲ執ルノ已ムヲ得ザルニ至リタル事實ヲ
辯明スルコトヲ要ス

第一百二十九條 前條ノ場合ニ於テハ艦長ハ破壊ノ已ムヲ得ザル
ニ至リタル情況及處分ノ顛末ヲ詳記シテ書式第十二ニ依リ辯
明書ヲ作成シ捕獲士官ヲシテ破壊シタル船舶ノ人員並轉載シ
タル船舶書類及其ノ他ノ書類物件ト共ニ之ヲ最近ノ帝國捕獲
審檢所ニ送致セシムベシ

艦長ハ前項ニ準シ直ニ船舶破壊ニ關スル詳細ナル報告ヲ海軍
大臣ニ提出スベシ

第一百三十條 艦長ハ拿捕シタル中立船ニシテ沒收セラルベキモ
ノニ非ズト認ムル場合ニ於テ第一百二十六條ノ規定ト同一ノ情
況アルトキハ該船舶内ニ在ル沒收セラルベキ貨物ノ引渡ヲ請
求シ又ハ之ヲ破壊スルノ手段ヲ執ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ艦長ハ其ノ引渡ヲ受ケ又ハ破壊シタル物件ヲ該船舶ノ船舶書類ニ記入シ且艦長ナシテ一切ノ必要ナル船舶書類ノ認證原本ヲ提出セシムベシ

前項ノ引渡ヲ受ケ又ハ破壊ヲ終リ且之ニ關スル手續ヲ終リタルトキハ艦長ハ該船舶ニ對シテ其ノ航海ヲ續航スルコトヲ許可スベシ

第二百二十八條 第二百二十九條ノ規定ハ之ヲ前條ノ場合ニ準用ス(書式第十三)

第二十三章 拿捕シタル敵船及其ノ載貨ノ使用

第二百三十二條 拿捕シタル船舶ハ軍事上必要アリト認ムル場合ニ於テハ之ヲ武裝シ其ノ他軍用ノ爲ニ之ヲ使用スルコトヲ得

第二百三十三條 艦長ハ敵船ヲ使用スル前豫メ該船舶内ニ在ル一切ノ人員ヲ安全ノ場所ニ移シ且審檢上必要ナル一切ノ書類物件ヲ艦内ニ轉載スベシ

第二百三十四條 拿捕シタル敵船ヲ使用スル場合ニ於テハ艦長ハ之ヲ使用スルニ至リタル事由ヲ詳記シ書式第十一ニ準シ調査ヲ作リ捕獲士官ナシテ該船舶ノ人員並轉載シタル船舶書類及其ノ他ノ書類物件ト共ニ之ヲ最近ノ帝國捕獲審檢所ニ送致セシムベシ

艦長ハ前項ニ準シ直ニ船舶使用ニ關シ詳細ナル報告ヲ海軍大臣ニ提出スベシ

第二百三十五條 拿捕シタル敵船内ニ在ル載貨ニシテ敵貨ト認ム

ベキモノノ使用ニ付テハ本章ノ規定ヲ準用ス

第二十四章 臨檢、搜索及拿捕

第二百三十六條 拿捕スベキ嫌疑アリト認ムベキ一切ノ私船ニ對シテハ其ノ何レノ國籍ニ屬スルヲ問ハズ臨檢及搜索ヲ行フコトヲ得

第二百三十七條 艦長嫌疑アル船舶ヲ發見シタルトキハ麾下職員ヲシテ左ノ事項ヲ錄取セシムベシ

一 初テ船舶ヲ發見シタル時刻及位置、同船舶ノ本艦ニ對スル距離方位及同船舶ノ取レル針路、他ノ帝國又ハ同盟國軍艦ヲ發見シタルトキハ同船舶ニ對スル該軍艦ノ距離方位及該軍艦ノ針路

二 追跡中ニ於ケル同船舶ノ針路、他ノ帝國又ハ同盟國軍艦ヲ發見シタルトキハ其ノ時刻方位及距離、該軍艦ノ針路及其ノ共同追跡シタル範圍

三 船舶ニ追及シタル時刻及位置、他ノ帝國又ハ同盟國軍艦ヲ發見シタルトキハ其ノ方位距離及該軍艦ノ針路、他ノ帝國又ハ同盟國軍艦ガ同船舶ヲ拿捕シタルトキハ本艦ノ之ニ對スル方位距離及本艦ノ針路

第二百三十八條 艦長臨檢又ハ搜索ヲ行フニ際シテハ船舶ヲシテ必要以外ニ其ノ原航路ヲ離レシメズ且成ルベク迷惑ヲ與ヘザルコトニ注意スベシ

第二百三十九條 艦長船舶ニ停止ヲ命ズルニ當リテハ必ず帝國軍

艦ノ旗章ヲ掲揚スベシ

第二百四十條 艦長ハ如何ナル場合ニ於テモ臨檢又ハ搜索ヲ爲スベキ船舶ニ對シテ其ノ短艇、乗員又ハ書類等ヲ本艦ニ送致スベキコトヲ請求スルコトヲ得ズ

第二百四十一條 艦長ハ先ヅ信號旗又ハ汽笛ヲ以テ臨檢ヲ行フベキ意思ヲ當該船舶ニ通ズベシ但シ夜間ニ在リテハ軍艦旗ノ上ニ白燈ヲ掲ゲテ信號旗ニ依リ信號ニ代フベシ

天候不具ノ爲前項ノ手段ニ依リ臨檢ノ意思ヲ通ズルコト能ハザルトキ又ハ當該船舶ニ於テ前項ノ信號ニ應ゼザルトキハ空砲ニ發テ連發シ尙必要アルトキハ其ノ船首ノ前方ニ向ケ實彈ヲ發シテ停船ヲ命ズベシ

前項ノ警告ヲ爲シタルモ尙停船ノ命ニ應ゼザルトキハ先ヅ船舶ノ橋桁ヲ砲撃シ最後ニ其ノ船體ニ及ボスベシ

第二百四十二條 船舶停止シタルトキハ艦長ハ臨檢士官一名ニ便宜補助員ヲ添ヘ之ヲ短艇ニ乘組マシメ該船舶ニ派遣スベシ短艇員ハ武器ヲ帶アルコトヲ得ズ但シ之ヲ短艇内ニ備置クコトヲ妨ゲズ

臨檢士官及補助員乗船ノ際必要アリト認ムルトキハ少數ノ短艇員ヲ隨伴スルコトヲ得

第二百四十三條 臨檢士官ハ先ヅ船舶書類ヲ檢査スベシ

第二百四十四條 臨檢士官船舶書類ヲ檢査シタル後尙嫌疑アリト認ムルトキハ船舶及載貨ノ搜索ヲ行フベシ

前項ノ場合ニ於テ臨檢士官必要アリト認ムルトキハ短艇員ヲシテ乘船助力セシメ又ハ本艦ニ助力ヲ求ムルコトヲ得

第二百四十五條 搜索ハ船長又ハ其ノ代理者立會ノ上ニ爲スベシ

閉鎖シタル場所、器具及載貨ハ船長又ハ其ノ代理者ヲシテ之ヲ開カシムベシ

前二項ノ場合ニ於テ船長又ハ其ノ代理者之ヲ拒ムトキハ臨檢ノ處置ヲ爲スコトヲ得

第二百四十六條 臨檢士官搜索中船舶ヲ拿捕又ハ抑留スベカラザルモノト認ムルトキハ搜索ヲ中止シ艦長ノ命ヲ受ケ之ヲ解放スベシ

第二百四十七條 臨檢士官ハ其ノ船舶ヲ去ル前臨檢又ハ搜索ノ手續其ノ他ノ點ニ付異議アリヤ否ヤヲ船長ニ質シ其ノ異議ヲ申立テタルトキハ書面ニテ之ヲ差出サシムベシ

第二百四十八條 臨檢士官臨檢搜索ヲ爲スニ方リテハ禮節ヲ重ズベシ

第二百四十九條 臨檢士官ハ書式第十四ニ依リ其ノ船舶ノ航海日誌ニ臨檢又ハ搜索ノ時、場所、本艦艦名及艦長ノ官氏名ヲ詳記スベシ

第二百五十條 艦長ハ臨檢搜索ノ上嫌疑アリト思考スルトキハ臨檢士官ヲシテ一應船長ノ辯明ヲ聽取ラシメ其ノ辯明ニ依ルモ尙拿捕又ハ抑留スベキモノト認ムベキ充分ノ嫌疑アルトキハ

船舶ヲ拿捕又ハ抑留スベシ
第二百五十一條 船舶ヲ拿捕又ハ抑留スベキヤ否ヤヲ判定スルニハ其ノ船舶ノ性質、積裝、載貨、船舶書類、乗員及其ノ證言等ニ依ルベシ

第二百五十二條 艦長船舶ヲ拿捕又ハ抑留スベキモノト決定シタルトキハ船長ニ其ノ理由ヲ告グ必要ナル士官及下士卒ヲ該船舶ニ派遣シ之ヲ占有セシムベシ

天候ノ不其ノ他ノ事故ノ爲士官及下士卒ヲ派遣スルコト能ハザルトキハ船舶ヲシテ艦長ノ命ニ從ヒ進航セシムベシ其ノ命ヲ聽カザルトキハ臨機ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第二百五十三條 船舶ヲ占有シタルトキハ艦長ハ臨檢士官ヲシテ左ノ各條ニ據ケル手續ヲ爲サシムベシ

- 一 船舶内ニ在ル船舶書類其ノ他一切ノ書類ヲ押收シテ其ノ目錄ヲ作成シ書類ニ付封緘ヲ施スコト
- 二 投棄、破毀又ハ隠匿セラレタル書類ヲ發見又ハ拾得シタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シテ前號ノ手續ヲ爲スコト
- 三 船内ニ在ル通貨、有價證券其ノ他貴重品ノ目錄ヲ作成スルコト
- 四 載貨ノ状態ヲ検査シテ船口ヲ閉鎖シ封印ヲ施スコト
- 五 書式第十五又ハ書式第十六ニ依リ拿捕又ハ抑留ニ關スル調査書ヲ作成シ内一通ヲ船長ニ交付スルコト

第二百五十四條 拿捕又ハ抑留シタル船舶ニハ帝國軍艦ノ旗章ヲ掲揚スベシ

掲揚スベシ第二百五十二條第二項ノ場合ニ於テハ船舶ヲシテ其ノ旗章ヲ撤去セシムベシ

第二百五十五條 艦長ハ船舶ヲ拿捕又ハ抑留シタル後其ノ拿捕又ハ抑留ノ不當ナルコトヲ確知シタルトキハ直ニ之ヲ解放スベシ

第二百五十六條 艦長ハ本艦ノ航海日誌ニ臨檢、搜索及拿捕又ハ抑留ニ關スル一切ノ事項ヲ記入セシムベシ

第二百五十七條 艦長ハ臨檢、搜索及拿捕又ハ抑留ニ關スル詳細ナル報告書ニ自己ノ意見ヲ添ヘ速ニ之ヲ海軍大臣ニ提出スベシ但シ臨檢又ハ搜索ニ當リテ船長ヨリ異議ヲ申立テタル場合及拿捕又ハ抑留ノ場合ニ在リテハ出來得ル限リ直ニ電報ヲ以テ之ニ關スル重要ナル事項ヲ報告スベシ

第二十五章 共同拿捕及再拿捕
第二百五十八條 帝國軍艦同盟國軍艦ト共同シテ船舶ヲ拿捕又ハ抑留シタル場合ニ於テハ該船舶ノ管理ハ左ノ各號ニ依ルベシ

- 一 帝國又ハ同盟國ノ一方ノ軍艦ニ於テ現ニ之ヲ拿捕又ハ抑留シ他方ノ軍艦ニ共同シタルトキハ先任ノ順序如何ニ拘ラズ現ニ之ヲ拿捕又ハ抑留シタル軍艦ノ艦長之ヲ其ノ本國港ニ送致ス
- 二 帝國軍艦及同盟國軍艦同時ニ船舶ヲ拿捕又ハ抑留シタルトキハ各艦長中先任官ニ於テ之ヲ其ノ本國港ニ送致ス

第二百五十九條 艦長ハ敵ニ拿捕又ハ抑留セラレタル帝國船舶、同盟國船舶又ハ中立船ノ再拿捕ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ船

船ガ未ダ敵港ニ送致セラレズ又ハ敵國ノ使用スル所トナラザルトキハ之ヲ解放スルコトヲ得

第二十六章 拿捕船舶送致ノ手續

第六十條 艦長ハ拿捕シタル船舶ヲ回航セシムルガ爲捕獲士官及必要ナル士官下士卒ヲ選任シテ之ニ乗込マシメ速ニ該船舶及其ノ載貨ヲ最近ノ帝國捕獲審檢所所在港ニ送致スベシ

第六十一條 艦長ハ拿捕シタル船舶ノ船長其ノ他ノ乗員ニ對シ捕獲士官ノ命ヲ受ケ船舶ノ回航ニ援助ヲ與フルコトヲ請求スルコトヲ得但シ其ノ請求ニ應ゼザルトキハ之ヲ強請スルコトヲ得ズ

第六十二條 艦長ハ船長其ノ他ノ乗員及一切ノ載貨並調査及押收シタル船舶書類ヲ拿捕シタル船舶ニ搭載シ成ルベク拿捕當時ト同一ノ情況ヲ保タシメ之ヲ送致スベシ

艦長ハ必要アリト認ムルトキハ拿捕ノ情況ヲ證明シ得ル麾下ノ職員ヲ該船舶ニ便乗セシムベシ

第六十三條 艦長ハ船長其ノ他ノ乗員ノ全員ヲ船舶ト共ニ送致スルコトヲ不適當ナリト認ムルトキハ少クトモ船長、事務長、運轉士又ハ荷物係ノ中若干人ヲ選ビ證人トシテ之ヲ送致スベシ

轉乘セシメタル其ノ他ノ乗員ハ速ニ之ヲ當該船舶ノ回航地ニ送致スベシ

第六十四條 前條ノ場合ニ於テハ艦長ハ捕獲士官ヲシテ書式

附 錄

第十七ニ依リ他船ニ轉乘セシメタル乗員及其ノ理由ニ關スル調査書ヲ作成セシムベシ

第六十五條 艦長ハ載貨中腐敗シ易キモノ其ノ他之ヲ送致スルニ適セザルモノアリト認ムルトキハ麾下ノ高等官中ヨリ適任ナル調査委員ヲ選任シ調査書ヲ差出サシムベシ

調査ノ要領ハ之ヲ本艦ノ航海日誌ニ記入スベシ

第六十六條 調査委員載貨中送致スルニ適セザルモノアルコトヲ報告シタルトキハ艦長ハ拿捕地又ハ附近ノ帝國港若ハ同盟國港ニ於テ其ノ載貨ヲ賣却スベシ但シ其ノ賣却ニ適セザルモノハ適宜ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 艦長ハ前條ノ處分ヲ爲ス前出來得ル限リ適任者ヲ選定シ賣却又ハ處分セムトスル載貨ニ付書面ヲ以テ之ヲ評價セシムベシ

賣却ハ捕獲士官ヲシテ現場ニ臨マシメ成ルベク公賣ニ付シテ之ヲ行ハシムベシ

第六十八條 艦長ハ捕獲士官ヲシテ書式第十八ニ依リ一切ノ賣却手續ニ關スル調査書ヲ作成セシメ之ニ調査委員ノ調査書評價書、賣却計算書其ノ他ノ書類ヲ添附シ拿捕シタル船舶ト共ニ之ヲ送致スベシ

第六十九條 艦長ハ拿捕シタル船舶ニシテ之ヲ送致スルニ堪ヘズト認ムルトキハ麾下ノ高等官中適任ナル調査委員ヲ選定シ調査書ヲ差出サシムベシ

調査ノ要領ハ之ヲ本艦ノ航海日誌ニ記入スベシ。
第七十條 調査委員拿捕シタル船舶ヲ送致スルニ堪ヘザルコトヲ報告シタルトキハ艦長ハ附近ノ帝國港又ハ同盟國港ニ之ヲ送致スベシ

第七十一條 前條ノ場合ニ於テハ艦長ハ捕獲士官ヲシテ書式第十九ニ依リ船舶ヲ附近ノ帝國港又ハ同盟國港ニ送致セル情況ヲ詳記シタル調査書ヲ作成セシメ調査委員ノ調査書ヲ之ニ添附シ該士官ヲシテ證人、船舶書類其ノ他審檢ノ爲ニ必要ナル書類ト共ニ之ヲ最近ノ帝國捕獲審檢所ニ送致セシムベシ

第七十二條 拿捕シタル船舶ハ航海ノ不能、海上ノ險惡又ハ燃料若ハ糧食ノ缺乏ノ事由ニ因ルニ非ザレバ之ヲ中立港ニ寄港セシムルコトヲ得ズ

前項ノ船舶ハ其ノ入港ヲ正當ナラシムルノ事由止ミタルトキハ直ニ該中立港ヲ出發セシムベシ

第七十三條 拿捕シタル船舶ハ帝國捕獲審檢所ノ檢定アル迄之ヲ拘留スル爲ニ中立港ニ送致スルコトヲ得ズ

第七十四條 第七十二條ノ場合ニ於テ中立國ニシテ拿捕シタル船舶ノ寄港ヲ拒絕シ又ハ不當ニ滯泊期間ヲ制限シタルトキハ捕獲士官ハ之ヲ當該國ニ在ル帝國外交官又ハ領事官ニ通知シテ當該國官憲ニ對スル交渉ヲ依頼シ且直ニ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第七十五條 捕獲士官其ノ回航船舶ニ乘組ミタルトキハ書式

第二十ニ依リ需品、器具及載貨ニシテ積載ノ儘調査スルコトヲ得ベキモノノ目錄二通ヲ作成シ内一通ヲ船長ニ交付スベシ此ノ目錄作成ニ付テハ船長ノ助力ヲ請求スルコトヲ得

第七十六條 捕獲士官ハ日誌ヲ作り回航中船舶、載貨及乗員ニ關スル異動ヲ記入スベシ

第七十七條 捕獲士官ハ回航中他ノ書類ヲ受領シ又ハ投棄、破毀若ハ隱匿セラレタルモノヲ發見又ハ拾得シタルトキハ其ノ目錄ヲ作成シ書類ニ封緘ヲ施シテ書式第二十一ニ依リ調査ニ之ヲ添附スベシ

第七十八條 捕獲士官ハ回航ニ付最モ嚴密ナル注意ヲ爲シ船舶又ハ載貨ニ損害ヲ及ボサザルコトヲ務ムベシ

第七十九條 捕獲士官ハ緊急ノ必要アル場合ニ限り乗員又ハ載貨ヲ陸揚シ又ハ之ヲ他ノ船舶ニ轉載スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ書式第二十二ニ依リ陸揚又ハ轉載シタル乗員、載貨及其ノ事由ヲ詳記シタル調査書ヲ作成スベシ

陸揚又ハ轉載シタル乗員及載貨ハ便宜ノ方法ニ依リ遲滞ナク之ヲ帝國捕獲審檢所ニ送致スベシ

第八十條 捕獲士官回航地ニ到達シタルトキハ直ニ拿捕シタル船舶及載貨ヲ帝國捕獲審檢所ニ引渡シ審檢ノ請求ヲ爲スベシ

第八十一條 艦長及捕獲士官ハ拿捕シタル船舶ノ回航ニ關スル詳細ナル報告書ニ自己ノ意見ヲ添ヘ速ニ之ヲ海軍大臣ニ報

告スベシ但シ乗員若ハ載貨ヲ陸揚シタル場合、船舶ヲ同盟國港ニ送致シ若ハ中立港ニ寄港セシメタル場合又ハ載貨ノ賣却其ノ他臨機ノ處分ヲ爲シタル場合ニ在リテハ直ニ電報ヲ以テ其ノ理由及處分ニ關スル要領報告スベシ

第八十二條 本章ノ規定ハ抑留シタル船舶ニ付之ヲ準用ス但シ抑留シタル船舶ニ對シテハ其ノ乗員ノ轉載又ハ載貨ノ賣却若ハ臨機ノ處分ヲ爲スハ絕對ノ必要アル場合ニ限り成ルベク船舶又ハ載貨ノ現狀ヲ保タシムルコトニ注意スベシ

○陸戰ノ場合ニ於ケル中立國及中立人ノ權利義務ニ關スル條約(一九〇七)

第一章 中立國ノ權利義務

第一條 中立國ノ領土ハ不可侵トス

第二條 交戦者ハ軍隊又ハ彈藥若ハ軍需品ノ輻重ヲシテ中立國ノ領土ヲ通過セシムルコトヲ得ズ

第三條 交戦者ハ又左ノ事項ヲ爲スコトヲ得ズ
 イ 無線電信局又ハ陸上若ハ海上ニ於ケル交戦國兵力トノ通信ノ用ニ供スベキ一切ノ機械ヲ中立國ノ領土ニ設置スルコト
 ロ 交戦者ガ戰爭前ニ全然軍事上ノ目的ヲ以テ中立國ノ領土ニ設置シタル此ノ種ノ設備ニシテ公衆通信ノ用ニ供セザルモノヲ利用スルコト

第四條 交戦者ノ爲ニ中立國ノ領土ニ於テ戰鬪部隊ヲ編成シ又ハ徵募事務所ヲ開設スルコトヲ得ズ

第五條 中立國ハ其ノ領土ニ於テ第二條乃至第四條ニ掲ゲタル一切ノ行爲ヲ寬容スベカラザルモノトス

中立國ハ其ノ領土ニ於テ行ハレタルモノニ非ザレバ中立違反ノ行爲ヲ處罰スルヲ要セザルモノトス

第六條 中立國ハ交戦者ノ一方ノ勤務ニ服スル爲個人ガ箇箇ニ其ノ國境ヲ通過スルノ事實ニ付其ノ責ニ任ゼズ

第七條 中立國ハ交戦者ノ一方又ハ他方ノ爲ニスル兵器、彈藥其ノ他軍隊又ハ艦隊ノ用ニ供シ得ベキ一切ノ物件ノ輸出又ハ通過ヲ防止スルヲ要セザルモノトス

第八條 中立國ハ其ノ所有ニ屬スルト會社又ハ個人ノ所有ニ屬スルトヲ問ハズ交戦者ノ爲ニ電信又ハ電話ノ線條並無線電信機ヲ使用スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルヲ要セザルモノトス

第九條 第七條及第八條ニ規定シタル事項ニ關シ中立國ノ定ムル一切ノ制限又ハ禁止ハ兩交戦者ニ對シ一律ニ之ヲ適用スベキモノトス
 中立國ハ電信若ハ電話ノ線條又ハ無線電信機ノ所有者タル會社又ハ個人ヲシテ右ノ義務ヲ履行セシムル様監視スベシ。

第十條 中立國ガ其ノ中立ノ侵害ヲ防止スル事實ハ兵力ヲ用キル場合ト雖之ヲ以テ敵對行爲ト認ムルコトヲ得ズ

第二章 中立國內ニ於テ留置スル交戦者及救護スル

第十一條 交戦國ノ軍隊ニ屬スル軍隊ガ中立國領土ニ入りタルトキハ該中立國ハ成ルベク戰地ヨリ隔離シテ之ヲ留置スベシ

中立國ハ右軍隊ヲ陣營内ニ監置シ且城塞若ハ特ニ之ガ爲ニ設備シタル場所ニ閉閉スルコトヲ得

許可ナクシテ中立領土ヲ去ラザルノ宣誓ヲ爲サシメテ將校ニ自由ヲ與フルト否トハ中立國ニ於テ之ヲ決スベシ

第十二條 特別ノ條約ナキトキハ中立國ハ其ノ留置シタル人員ニ糧食、被服及人道ニ基ク救助ヲ供與スベシ

留置ノ爲ニ生ジタル費用ハ平和克復ニ至リ償却セラレベシ

第十三條 逃走シタル俘虜ガ中立國ニ入りタルトキハ該中立國ハ之ヲ自由ニ任スベシ若其ノ領土内ニ滯留スルコトヲ寬容スルトキハ之ガ居所ヲ指定スルコトヲ得

右規定ハ中立國ノ領土ニ避退スル軍隊ノ引率シタル俘虜ニ之ヲ適用ス

第十四條 中立國ハ交戦國ノ軍ニ屬スル傷者又ハ病者ガ其ノ領土ヲ通過スルヲ許スコトヲ得但シ之ヲ輸送スル列車ニハ戰闘ノ人員及材料ヲ搭載スルコトヲ得ザルモノトス此ノ場合ニ於テハ中立國ハ之ガ爲ニ必要ナル保安及監督ノ處置ヲ執ルベキモノトス

交戦者ノ一方ガ前記條件ノ下ニ中立領土内ニ引率シタル傷者

又ハ病者ニシテ對手交戦者ニ屬スベキ者ハ再ビ作戦動作ニ加ルコトヲ得ザル様該中立國ニ於テ之ヲ監守スベシ右中立國ハ自己ニ委ネラレタル他方軍隊ノ傷者又ハ病者ニ付同一ノ義務ヲ有スルモノトス

第十五條 「ジュネヴァ」條約ハ中立領土ニ留置セラレタル病者及傷者ニ之ヲ適用ス

第三章 中立人

第十六條 戰爭ニ與ラザル國ノ國民ハ中立人トス

第十七條 左ノ場合ニ於テ中立人ハ其ノ中立ヲ主張スルコトヲ得ズ

イ 交戦者ニ對シ敵對行爲ヲ爲ストキ

ロ 交戦者ノ利益ト爲ルベキ行爲ヲ爲ストキ殊ニ任意ニ交戦國ノ一方ノ軍ニ入りテ服務スルトキ

右ノ場合ニ於テ交戦者ニ對シ中立ヲ守ラザリシ中立人ハ該交戦者ヨリ同一ノ行爲ヲ爲シタル他方交戦國ノ國民ニ比シ一層嚴ナル取扱ヲ受クルコトヲ得

第十八條 左ニ掲ケル事項ハ第十七條口號ニ所謂交戦者ノ一方ノ利益ト爲ルベキ行爲ト認メズ

イ 交戦者ノ一方ニ供給ヲ爲シ又ハ其ノ公債ニ應ズルコト

但シ供給者又ハ債主ガ他方ノ交戦者ノ領土又ハ其ノ占領地ニ住居セズ且供給品ガ此等地方ヨリ來ラザルモノナルトキニ限ル

ロ 警察又ハ民政ニ關スル勤務ニ服スルコト

第四章 鐵道材料

第十九條 中立國ノ領土ヨリ來リタル鐵道材料ニシテ該中立國又ハ私立會社若ハ個人ニ屬シ及屬スト認ムベキモノハ必要已ムヲ得ザル場合及程度ニ於テスルノ外交戦者ニ於テ之ヲ徵發使用スルコトヲ得ズ右材料ハ成ルベク速ニ本國ニ送還スベシ

中立國モ亦必要ナル場合ニ於テハ交戦國ノ領土ヨリ來リタル材料ヲ該交戦國ガ徵發使用シタル程度以内ニ於テ留置使用スルコトヲ得

右ニ關スル賠償ハ使用シタル材料及使用ノ期間ニ應ジテ雙方ニ於テ之ヲ爲スベシ

第五章 附 則

第二十條 本條約ノ規定ハ交戦國ガ悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限約國間ニノミ之ヲ適用ス

(第二十一條乃至第二十五條批准手續略ス)

亞爾然丁國 亞爾然丁共和國ハ第十九條ヲ留保ス

清 國 不加盟

大不列顛國 第十六條、第十七條及第十八條ヲ留保ス

ニカララケ國 不加盟

○海戰ノ場合ニ於ケル中立國ノ權利義務ニ關スル條約(一九〇七)

第一條 交戦者ハ中立國ノ主權ヲ尊重シ且中立國ニ於テ寬容ノ結果其ノ中立違反ヲ構成スルニ至ルベキ一切ノ行爲ヲ中立領土又ハ領水ニ於テ行フコトヲ避ケルコトヲ要ス

第二條 交戦國軍艦ガ中立國領水ニ於テ捕獲及臨檢搜索權ノ行使其ノ他一切ノ敵對行爲ヲ行フコトハ中立ノ侵犯ヲ構成スルモノトシ之ヲ嚴禁ス

第三條 船舶ガ中立國領水ニ於テ捕獲セラレタル場合ニ於テ該國ハ捕獲セラレタル船舶ガ尙其ノ管轄内ニ在ルトキハ其ノ職員及船員ト共ニ之ヲ解放スル爲且捕獲者ガ右船舶ニ乗込マシメタル艦員ヲ抑留スル爲施シ得ベキ一切ノ手段ヲ盡スコトヲ要ス

右捕獲セラレタル船舶ガ既ニ中立國ノ管轄外ニ在ルトキハ捕獲國政府ハ右中立國ノ要求ニ依リ該船舶ヲ其ノ職員及船員ト共ニ解放スルコトヲ要ス

第四條 交戦者ハ中立領土内又ハ中立領水ニ在ル船舶内ニ捕獲審檢所ヲ設ケルコトヲ得ズ

第五條 交戦者ハ中立ノ港及領水ヲ以テ敵ニ對スル海軍作戦根據地ト爲スコトヲ得ズ殊ニ無線電信局又ハ陸上若ハ海上ニ於

ケル交戦國兵力トノ通信ノ用ニ供スベキ一切ノ器械ヲ設置スルコトヲ得ズ

第六條 中立國ハ如何ナル名義ヲ以テスルヲ問ハズ交戦國ニ對シ直接又ハ間接ニ軍艦、彈藥又ハ一切ノ軍用材料ヲ交付スルコトヲ得ズ

第七條 中立國ハ交戦者ノ一方又ハ他方ノ爲ニスル兵器、彈藥其ノ他軍隊又ハ艦隊ノ用ニ供シ得ベキ一切ノ物件ノ輸出又ハ通過ヲ防止スルヲ要セザルモノトス

第八條 中立國政府ハ自己ト平和關係ヲ有スル國ニ對シ巡邏ノ用ニ供シ又ハ敵對行爲ニ加ルベキモノト信ズベキ相當ノ理由アル一切ノ船舶ガ其ノ管轄内ニ於テ裝裝又ハ武裝セラルルコトヲ防止スル爲施シ得ベキ手段ヲ盡スコトヲ要ス中立國政府ハ又巡邏ノ用ニ供シ又ハ敵對行爲ニ加ルベキ船舶ニシテ其ノ管轄内ニ於テ全部又ハ一部戰爭ノ用途ニ適合セシメタルモノハ總テ其ノ管轄外ニ出發スルコトヲ防止スル爲同様ノ監視ヲ爲スコトヲ要ス

第九條 中立國ハ其ノ港、泊地又ハ領水ニ交戦國軍艦又ハ其ノ捕獲シタル船舶ヲ入ラシムルコトニ關シテ定メタル條件、制限又ハ禁止ヲ交戦者雙方ニ對シテ均等ニ適用スルコトヲ要ス

中立國ハ其ノ定メタル命令及規則ヲ遵守スルコトヲ怠リ又ハ中立ヲ侵害シタル交戦國艦船ニ對シ其ノ港又ハ泊地ニ入ルヲ

禁ズルコトヲ得

第十條 交戦國軍艦及其ノ捕獲シタル船舶ガ單ニ中立領水ヲ通過スルコトハ其ノ國ノ中立ヲ侵害スルモノニ非ズ

第十一條 中立國ハ其ノ公許水先人ヲ交戦國軍艦ニ於テ使用スルニ任スコトヲ得

第十二條 中立國ノ法令中別段ノ規定ナキトキハ交戦國軍隊ハ本條約ニ規定シタル場合ヲ除クノ外二十四時間以上中立國ノ港、泊地又ハ領水ニ碇泊スルコトヲ得ズ

第十三條 開戦ノ通知ヲ受ケタル國ガ自國ノ港、泊地又ハ領土ニ交戦國軍艦ノ在ルコトヲ知リタルトキハ該國ハ右軍艦ニ對シ二十四時間内又ハ自國法令ニ規定シタル期間内ニ出發スベキコトヲ通告スルコトヲ要ス

第十四條 交戦國軍艦ハ破損ノ爲又ハ海上ノ狀態ニ因ル場合ヲ除クノ外法定期間以上中立港内ノ碇泊ヲ延長スルコトヲ得ズ右軍艦ハ遲延ノ原因止ムトキハ直ニ出發スベキモノトス中立ノ港、泊地及領水ニ於ケル碇泊ノ制限ニ關スル規則ハ專ラ宗教、學術又ハ博愛ノ任務ヲ有スル軍艦ニ之ヲ適用セズ

第十五條 中立國ノ法令中別段ノ規定ナキトキハ該國ノ港又ハ泊地ノ一ニ同時ニ滞在シ得ベキ各交戦國軍艦ノ數ハ三隻ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十六條 交戦國雙方ノ軍艦ガ同時ニ中立國ノ港又ハ泊地ノ一ニ在ルトキハ一方ノ軍艦ノ出發ト他方ノ軍艦ノ出發トノ間ニ

少クモ二十四時間ヲ經過セシムルコトヲ要ス

出發ノ順序ハ到着ノ順序ニ依リテ之ヲ定ム但シ最初到着シタル軍艦ニシテ碇泊ノ法定期間ノ延長ヲ許セラルル場合ニハ此ノ限ニ在ラズ

交戦國軍艦ハ其ノ對手國ノ國旗ヲ掲グル商船ガ中立ノ港又ハ泊地ヲ出發シタル後二十四時間内ニ出發スルコトヲ得ズ

第十七條 交戦國軍艦ハ中立ノ港及泊地ニ於テ航海ノ安全ニ缺クベカラザル程度以上ニ其ノ破損ヲ修理シ且如何ナル方法ニ依ルヲ問ハズ其ノ戰鬪力ヲ增加スルコトヲ得ズ中立國官憲ハ實行スベキ修理ノ範圍ヲ定メ爲シ得ル限度ニ之ヲ行ハシムベシ

第十八條 交戦國軍艦ハ其ノ軍需品又ハ武裝ヲ更新又ハ増加スル爲及其ノ艦員ヲ補充スル爲中立ノ港、泊地及領水ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十九條 交戦國軍艦ハ平時ニ於ケル軍需品ノ通常搭載量ヲ補充スル場合ニ限中立ノ港又ハ泊地ニ於テ其ノ積入ヲ爲スコトヲ得

右軍艦ハ又最近本國港ニ達スル爲ニ必要ナル量ニ限燃料ヲ積入ルルコトヲ得中立國ガ供給スベキ燃料額ヲ定ムルニ付軍艦ノ燃料船ノ全容量ヲ補充スルヲ許スノ制ヲ採レル場合ニ於テハ交戦國軍艦ハ該中立國ニ在リテハ前記ノ量ヲ補充スルニ必要ナル燃料ヲ積入ルルコトヲ得

中立國ノ法規ニ依リ軍艦ガ其ノ到着ヨリ二十四時間ノ後ニ非サレバ石炭ノ供給ヲ受ケルヲ得ザルトキハ法定ノ碇泊期間ヲ二十四時間延長スルモノトス

第二十條 交戦國軍艦ニシテ中立國ノ港ニ於テ燃料ヲ積入レタルモノハ三月ヲ經過スルニ非ザレバ同一中立國ノ港ニ於テ再ビ其ノ積入ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十一條 捕獲シタル船舶ハ航海ノ不能、海上ノ險惡又ハ燃料若ハ糧食ノ缺乏ノ事由ニ因ルニ非ザレバ之ヲ中立港内ニ引致スルコトヲ得ズ

右船舶ハ其ノ入港ヲ正當ナラシムルノ事由止ミタルトキハ直ニ出發スベキモノトス出發セザルトキハ中立國ハ直ニ出發ヲ命ズベク之ニ從ハザルトキハ其ノ職員及船員ト共ニ該船舶ヲ解放シ且捕獲者ガ船内ニ乘組マシメタル艦員ヲ留置スル爲施シ得ベキ手段ヲ盡スベキモノトス

第二十二條 中立國ハ又捕獲セラレタル船舶ニシテ第二十一條ニ規定シタル條件ニ依ラズシテ引致セラレタルモノヲ解放スルコトヲ要ス

第二十三條 捕獲セラレタル船舶ガ捕獲審檢所ノ檢定アル迄之ヲ拘留スル爲引致セラレタル場合ニ於テハ中立國ハ其ノ護送セラルルト否トヲ問ハズ之ガ自國ノ港又ハ泊地ニ入ルヲ許スコトヲ得該中立國ハ右船舶ヲ自國ノ他ノ港ニ移サシムルコトヲ得ベシ

捕獲セラレタル船舶が軍艦ニ由リ護送セラレタルトキハ捕獲者ガ該船ニ乗組マシメタル將校其ノ他ノ艦員ハ護送艦ニ轉乘スルコトヲ許サルベシ

第二十四條 交戰國軍艦ニシテ中立官憲ノ通告アルニ拘ラズ滯留スルノ權利ナ有セザル港ヲ去ラザルトキハ中立國ハ該軍艦ヲシテ戰爭ノ繼續中出航スルコト能ハザラシムル爲必要ト認ムル手段ヲ執ルコトヲ得該軍艦ノ艦長ハ右手段ノ實行ヲ容易ナラシムルコトヲ要ス

交戰國軍艦中立國ノ爲ニ抑留セララルトキハ將校其ノ他ノ艦員モ亦均シク抑留セララルベシ

右抑留セラレタル將校其ノ他ノ艦員ハ之ヲ該軍艦内ニ留メ又ハ他ノ船舶内若ハ陸上ニ宿泊セシムルコトヲ得ベク且之ヲシテ必要ナリト認ムル制限ノ規律ニ服セシムルコトヲ得ルモノトス但シ軍艦ノ保存上必要ナル人員ヲ常ニ艦内ニ殘シ置ケコトヲ要ス

將校ハ許可ナクシテ該中立領土ヲ去ラザル旨宣誓セシメタル上之ニ自由ヲ與フルコトヲ得

第二十五條 中立國ハ其ノ港、泊地及領水ニ於テ前記規定ニ對スル一切ノ違反ヲ防止セムガ爲施シ得ベキ手段ニ依ル監視ヲ行フコトヲ要ス

第二十六條 中立國ガ本條約ニ規定スル權利ヲ實行スルコトハ之ニ關スル條項ヲ承認シタル交戰者ノ一方又ハ他方ニ於テ友誼ニ戻リタル行爲ト認ムルコトヲ得ザルモノトス

第二十七條 各締約國ハ其ノ港及領水ニ於ケル交戰國軍艦ノ取扱ヲ定メタル一切ノ法令其ノ他ノ規定ヲ適當ナル時期ニ於テ相互ニ通知スベク之ガ爲當該國ヨリ和蘭國政府ニ通告ヲ爲シ同國政府ヨリ直ニ之ヲ他ノ締約國ニ移牒スルモノトス

第二十八條 本條約ノ規定ハ交戰者ガ悉ク本條約ノ當事者ナルトキニ限約國間ニノミ之ヲ適用ス

(第二十九條乃至第三十三條ハ省略ス)

獨逸 國 第十一條、第十二條、第十三條及第二十條ヲ留保ス

下ミカ共和國 第十二條ヲ留保ス
大不列顛國 第十九條及第二十三條ヲ留保ス
日本 國 第十九條及第二十三條ヲ留保ス
ニカラケツ國 不 加 盟
波 斯 國 第十二條、第十九條、第二十一條ヲ留保ス
暹 羅 國 第十二條、第十九條及第二十三條ヲ留保ス
土 耳 其 國 千九百七年十月九日ノ第八回總會議事錄ニ記入セラレタル第十條ニ關スル宣言ヲ留保ス

大正十一年四月二十五日
昭和六年三月二十五日
昭和九年三月二十五日
昭和十一年三月二十五日



發兌元

東京市神田區
神保町二丁目

巖松堂書店

電話九段(33)四一三五番 四一三六番
振替口座東京六五五六番

國際公法論綱
定價金參圓

中 村 進 午

東京市神田區神保町二丁目二番地
株式會社 巖松堂書店

右代表者 波多野重太郎

龜 谷 良 一

著 者
發 行 者
印 刷 者

書行刊店書堂松巖

河邊久雄著	訂改	國際私法論	送料價 三、八〇
遠藤登喜夫著	國	際私法	送料價 三、〇〇
山口弘一著	訂改	日本國際私法論上卷	送料價 三、〇〇
山口弘一著	訂改	日本國際私法論下卷	送料價 一、五〇
中村進午著	國	際公法論綱	送料價 三、〇〇
天野德也著	國	際法學(上)	送料價 三、九〇
天野德也著	國	際法學(中)	送料價 三、三〇
岡岡良一著	國	際法學大綱(上卷)	送料價 三、五〇
松原一雄著	國	際法概論	送料價 四、八〇
板倉卓造著	世近	國際法史論	送料價 四、〇〇
佐藤醇造著	國	際法問題研究	送料價 二、五〇
泉哲著	國	際法問題研究	送料價 三、三〇

書行刊店書堂松巖

澤田謙著	國	際聯盟新論	送料價 三、〇〇
巖山政道著	國	際政治と國際行政	送料價 二、五〇
國際聯盟事務局	聯	盟政治の現勢	送料價 三、五〇
淺野利三郎著	文化史觀	國際思想發達史	送料價 三、八〇
淺野利三郎著	最	近國際思想史	送料價 五、三〇
中島九郎著	對米日支	移民問題の解剖	送料價 一、五〇
芦田均著	君府	海峽通航制度史論	送料價 五、〇〇
齋藤良衛著	世近	東洋外交史序說	送料價 四、〇〇
植田捷雄著	支	那外交史論	送料價 二、三〇
寺島成信著	帝	國海運政策論	送料價 五、五〇
住田正一著	日	本海法史	送料價 四、〇〇
巖山政道著	政	治學の任務と對象	送料價 三、六〇

書行刊店書堂松巖

大鹽龜雄著 新世界植民史	稻田昌植著 植民と農政	淺見登郎著 日本植民地統治論	松岡正男著 植民新論	稻田周之助著 植民政策通解	永井亨著 日本人口論	内田繁隆著 日本政治思想史	占部百太郎著 佛蘭西革命史論	堀切善次郎著 貴族院改革資料	麻生久著 無產政黨の理論と實際	田所輝明著 政治運動教程	稻田周之助著 政治心理論
定価 三、三〇	定価 二、〇〇	定価 三、五〇	定価 二、〇〇	定価 一、九〇	定価 三、五〇	定価 三、三〇	定価 三、〇〇	定価 三、一五〇	定価 五、六〇	定価 一、五〇	定価 一、八〇

502
102

